

第5章 将来都市構造

本市の将来都市構造を考える上で、都市機能の集積を図るべき拠点と拠点間を結ぶ軸を位置づけます。

拠点は、商業・業務・工業など産業の集積等による拠点、生活を支える拠点、うるおいを与える拠点等であり、また、それらを結び、市内外の連携・交流の促進、産業の振興を担う軸は、交通網を利用するものとします。

1 拠点の形成

拠点は、地形等の自然条件や市街地形成の過程を踏まえ、将来の都市を形成していく中心として位置づけます。

にぎわいの拠点

白岡駅周辺地区は、都市計画道路白岡駅西口線の沿道及び白岡中学校周辺において商業・業務機能の集積を図りながら、徒歩圏内に生活関連機能が確保された利便性の高い環境の形成、本市の顔として魅力的な都市景観の形成、都市型住宅の推進などにより本市の中心としてふさわしい土地の有効利用を誘導する『にぎわいの拠点』として位置づけます。

やすらぎの拠点

新白岡駅周辺地区は、地域の中心となる商業・文化、スポーツ・レクリエーション、福祉などのやすらぎに満ちた生活を支えるための機能を集積し、徒歩圏内に生活関連機能が確保された利便性の高い住環境を形成する『やすらぎの拠点』として位置づけます。

産業拠点

県道さいたま栗橋線以西の既存の工業団地及び白岡西部産業団地は、本市の工業系の機能を担う地域であり、『産業拠点』として位置づけます。

また、白岡西部産業団地の北側は、周辺の自然・農業・景観などとの調和を保ちながら、白岡菖蒲インターチェンジ及び国道122号に近接する広域交通の拠点性を活かして産業を誘致する『産業拠点』として位置づけます。

観光・レクリエーション拠点

大山地区の柴山沼周辺は、豊かな自然を活かして、生態系や景観の保全に配慮しながら、広域圏からの多くの人々が余暇を楽しむ『観光・レクリエーション拠点』として位置づけます。

コミュニティ拠点

市庁舎周辺は、公園や保健・福祉施設、各種競技会やイベントが開催される総合運動公園や室内プールなどの施設が集積していることから、市民や近隣市町の人々が訪れる『コミュニティ拠点』として位置づけます。

2 軸の形成

軸は、拠点間を結び、都市を形成していく上で骨格となる交通網などを位置づけます。

広域連携軸

周辺都市との交流や産業の活動を支え、都市の骨格となる道路を『広域連携軸』として、国道122号、県道さいたま栗橋線、春日部菖蒲線等を位置づけます。

広域連携軸は、本市全体の発展を支え、道路交通、都市間交流などの役割を担う軸としての機能を持たせます。

コミュニティ軸

広域連携軸を補完し、市内の各地域間や拠点間を結ぶ道路を『コミュニティ軸』として、都市計画道路野牛篠津線、白岡久喜線、白岡駅西口線、白岡駅東口線等を位置づけます。

コミュニティ軸は、本市の各地域間の連携・交流の促進や産業の振興などの役割を担う軸としての機能を持たせます。

●将来都市構造図

